

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像 自分で目標を持ち、思いやりを行動に移して、豊かな人間関係が作れる子	堺市立 城山台小学校 校長 森 一展
--	-----------------------

令和7年度 重点目標 「子どもの未来をつくる美木多小学校・城山台小学校」 学びの選択肢を増やしながら、友だちと共に学びを楽しみ、自分の学びを次へ次へとつなぎ、学びを広げられる学校	～協働的な学びを通し、お互いに認め合える子どもの育成～
---	-----------------------------

確かな学びの現状 令和6年度の全国学力学習状況調査では全国平均に対して、国語が約7％、算数が約4％下回った。質問紙調査では、約95％以上の児童が「国語や算数の勉強が大切だと思っている」ことがわかった。しかし、次の質問の肯定的回答は「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」は76％ 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」は80％となっている。自分から取り組んだり次の学習へとつなげたりすることには、苦手意識が見られる。学びを自分事として捉えられるように「学びのコンパス」を軸にした授業改善を進め、今年度の重点目標を達成したい。	豊かな心・健やかな体の現状 全国学力・学習状況調査では、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では9.6％、「友達関係に満足していますか」では9.2％の児童が肯定的回答をしており、全国平均を上回る結果となった。また「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では9.6％の児童が肯定的に回答しており、全国平均に対して相当に高い結果となり、教師のポジティブな声かけが児童のポジティブな気持ちを育てていると確信している。今年度も児童の「望ましい行動」「良い行動」を称賛し、児童自身がより良い声かけ、行動を進んで行えるように、教師のポジティブな視点と支援を意識した教育活動を行っていき
---	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	主体的に学ぶ子どもの育成と授業改善	総合的な学力を育成するために、探究学習を意識すると共に、自己選択・自己決定・自己調整を児童が行えるようにする。	研究授業を行い、授業の進め方や児童への関わり方を学びあい、授業力向上を図る。	研究授業 研修会での討議	・自己評価 ・学校教育アンケート ・学習生活状況調査、 ・ウオッチ等の調査	年度末	○	研究授業と協議会で意見を交わしながら、授業改善を進めている。	○	児童が発表場面でICTをスムーズに活用しており、動画を取り入れるなど表現の工夫が見られた。子ども同士が主体的に教え合い、学び合う姿が定着している。
			●ICTの活用を進め、個別最適な学びや協働的な学びへと、児童の学びを進めている。	発表ノートなど、ICTの活用した学習指導についての実践報告		8月と2月	△	ICTの活用を進めると同時に子どもの学び方について研修を進めている。	△	
			●「1人で学ぶ、友だちと学ぶ」など、自己選択・自己決定・自己調整を意識した学習を進め、学ぶことが楽しいという気持ちを育てる。	児童が学び方を選ぶことのできる学習場面を、授業時間内に設けているか		8月と2月	○	「自分で選んで決める」学びを学習の中で取り入れようとしている。	○	教科に応じて相談相手を選ぶなど、主体的に学ぶ姿が見られる。学びに対して前向きな児童が多い一方、一人で集中したい時の静寂な環境づくりに必要な工夫を期待したい。
			●小集団（ペアやグループ）での対話を増やし、友だちに素直に聞き意見が言える場面を作る。	「友達と話しあうとわかりやすい」肯定的評価90%以上		8月と2月	○	小集団での対話を取り入れた授業が増えて、主体性が増している。	○	
			子ども自身が学習内容を振り返り、次の学習への見通しをもてるように、ルーブリックの研修を深め、特にICTとの連携方法を研鑽する。	ICTを活用した振り返りやルーブリックの活用についての実践報告		8月と2月	△	ルーブリックについては、活用方法を含め、研究途中である。	△	
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実 体力向上	人権尊重を基盤とした学校づくりに取り組み、いじめや差別を許さない学校、自分の居場所を感じられる学級集団と学校づくりを進める。	道徳授業を通し、自分と相手との違いを認め、いじめを許さない心情を育てる。	児童のプリントや振り返りを用いた実践報告	・自己評価 ・学校教育アンケート ・学習生活状況調査、 ・ウオッチ等の調査	8月と2月	○	対話の時間を増やし、お互いの考えを聴き合う場面を作っている。	○	道徳授業の充実と並行し、教職員による積極的な肯定感醸成に取り組んだ。「先生は良いところを認めてくれる」93%、「人の役に立ちたい」が100%と高い数値を示した。中学校区での連携も開始しており、次年度さらに深化させる。
			●ポジティブ支援として、子どもの良さを認める視点を持ち、褒める（認める）声かけを教師が率先して行う。	「先生は良いところを認めてくれる」肯定的評価90%以上		8月と2月	◎	「座る姿勢や聞く態度」等ちょっとした良さを認める声かけを進めている。	◎	「考える体育」の実践は児童の運動への関心を高め、体育好きの増加が期待できる。食育も十分にできている。家庭との連携も含めた継続的な啓発が望ましい。
			★小中一貫教育を推進し、日々の教育活動を通して自尊感情を高め、他者を理解する気持ちや、助け合い、協力し合うことができる子どもを育てる。	「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」肯定的評価90%以上		年度末	○	子どもたちが関わり合う学習場面を設定し他者理解場面を増やしている。	○	
			運動やスポーツの楽しさを実感できる取組や授業の展開を行う。	「運動をするのが楽しい」肯定的評価85%以上		年度末	○	体育でも友だちと相談する時間を確保する等主体性を育むようにしている。	○	
			学校給食を通じた食育を充実させ、食への関心を高め、自分の健康について考える。	児童のプリントや振り返りを用いた実践報告		年度末	○	栄養教諭を中心に栄養の大切さや食事のマナーの啓発を進めている。	○	
地域協働	依頼される学校	学校情報を積極的に発信するとともに、保護者や地域住民、関係機関との連携により、学校経営の改善を図る。	学校ホームページ、学校だより等を活用し、教育活動の現状や、学校、学級での取り組みの発信に努める。	「学校は情報発信に努めている」肯定的評価90%以上	教育アンケート	年度末	○	学校ホームページを毎日更新するようにし、情報発信を続けている。	○	ホームページの更新頻度が高く、学校の様子が分かりやすく情報が得やすい。ボランティア活動への期待も高く、今後も地域と一体となった取組を継続してほしい。
			保護者、地域ボランティア等の方に可能な範囲で参加していただき、学校経営への参画や学校評価への協力を受け学校改善を図る。	可能な範囲での地域ボランティア等への協力依頼	実践報告	年度末	○	学校行事等のボランティア活動の参加を呼びかけ協力をいただいている。	○	

校長より(年度末) 今年度は「学びの選択肢を増やす」ことを柱に、ICTを活用した個別最適な学びと、小集団での対話を重視した協働的な学びの充実に努めてきました。児童が自ら学び方を選択し、互いに教え合う主体的な姿が授業の随所で見られるようになり、確かな手応えを感じています。心の育成面では、教職員による「ポジティブ支援」を継続した結果、児童の自己肯定感や他者への貢献意欲（「人の役に立ちたい」100％）が極めて高い水準で推移しました。学校関係者評価においても、この温かな関わりが児童の心の成長に繋がっているとの高い評価をいただきました。一方で、一人で集中して学ぶ環境の保障や、ルーブリックの活用による学習の可視化については次年度への継続課題として明確になりました。今後も地域・保護者の皆様との連携を一層深め、子どもたち一人ひとりの良さを引き出し、未来を切り拓く力を育む教育を推進していきます。	学校関係者評価者から(年度末) 教職員による日常的な「前向きな声かけ」が、児童の自己肯定感の向上に大きく寄与している。自分を大切にすること他者への思いやりへと繋がっており、良好な人間関係の構築に表れている。ICT活用については、情報の収集や集約が円滑に行われており、学習の深化が見られる。今後も、将来の社会生活を見据えた実践的な資質・能力の育成を継続してほしい。一人ひとりの子どもが持つ潜在的な力や良さを最大限に引き出す教育活動に、引き続き期待を寄せるものである。
---	---